

金色の秋の暮

宮本百合子

青空文庫

十月三十一日 晴

起きてみると誰の姿も見えず。庭の方でYとSさんらしい声がする。顔を洗つていると、さだが「おや」と裏の方から出て来た。雨戸にかんかん日がさしている。芝生で椅子を並べ、Sさん、Yが支払いの帳面しらべをする手伝いをさせられていた。昨日、K先生のところへ行かれた由。風邪をこじらせて二階で夜着を顎まで引上げて寝ていた。「病気をしていらつしやると何だかお気の毒でねえ」

K先生、B学院で総指揮者、家でも総指揮者。

「私は他人のためにばかり生活して自分の生活がない形ですね」

といわれたそうだ。

暖かでそれはそれはいい気持。落葉沢山。

昨夜たてたYの咽喉の魚の骨まだとれず、頻に気にしている。

鹿野医院へ行つたが日曜で留守。もう一軒、あつちの桜並木通りの医者へ行つた。やや暫くして、骨はとれずぷりぷりして帰つて来た。洋館まがいの部屋などあるが、よぼよぼのまやかし医者で、道具も何もなく、舌を押えて覗いては考え、ピンセットを出しては思案し、揚句、この辺ですか、とかき廻されたのでやめにして來た由。「一円とられた。この医者大藪つて貼紙して来てやろうか」

Sさん、御良人の帰朝までもう一年。半年経つてやつと留守に

馴れた。人間が境遇に馴れる力。シユニツレル、ゲーテ、イディオットのこと。子供のこと。年をとつた女に歌心、絵心、それではなければ信心がある方がいいこと等。

これあるかな松茸飯に豆腐汁。昼はこれ。

M氏来。もう御昼はすみました。でもまあ一膳召しあがれよ。二度目の御昼だが美味かつたそうだ。結構。皆おいしがつたから、さだ嬉しがつて満面ニコニコなり。

平八郎の絵、朝顔がよかつた（Mの話）帝展には大体興味なし。けれどもこの間契月、未醒、清方、靈華などの合評を読んだら、フム、と感じるところもあつた。

Sさんが帰ると、Y、急に九品仏に行こうといい出した。（三

時半頃）この間N氏が家族づれで行つてなかなか道の心持がよかつたというところだ。三井の横を抜け、竹藪を抜け、九品仏道と古風な石の道しるべについて行つたら、A氏の農園のすぐ横に出た。働いていたAさんと畑越しに大声で田園的挨拶を交す。

駒沢へ出る街道から右に切れると、畑の起伏が多く、景色は変化に富んで愉快であつた。午後の斜光を背後から受けてキラキラ光る薄の穂、黄葉した遠くの樹木、大根畑や菜畑の軟かい黒土と活々した緑の鮮やかな対照。

九品仏は今は殆ど廃寺に等しい。本堂の裏に三棟独立した堂宇があり、内に三対ずつの仏像を蔵している。徳川時代のものだろうか。もう暗いので、隠に仏像の金色が見えただけ、木像、光背

も木。余り立派な顔の仏でないようだ。境内宏く、古びた大銀杏の下で村童が銀杏^{ぎんなん}をひろつて遊んでいる。本堂の廊から三つの堂を眺めた風景、重そうな茅屋根が夕闇にぼやけ、大銀杏の梢にだけ夕日が燃ゆる金色に閃いているのは、なかなか印象的であった。いかにも関東の古寺らしく、大まかに寂び廃れた趣きよし。関西の古寺とは違う。雰囲気が。

小僧夕方のお勤め。木魚の音。やがて背のかがんだ年よりの男が別な小僧をつれて出て来、一方の大きい浅草觀音のと同じ扉をギーとしめ、こつちに来て賽錢箱をあけ始めた。紺絣に白木綿の兵児帯をぐるぐる巻きにした小僧、笊^{ざる}をもつてこぼれる錢をあつめる。畳の上へ賽錢箱をバタン、こつちへバタンと引つくりかえ

すが出た銅貨はほんのぼつちり。今度は正面の大賽錢箱。すのこのように床にとりつけてある一方が鍵で開くらしい。年よりの男が大きい昔ながらの鍵をガチャガチャ鳴らしてあちら向きに何かしている。白木綿の兵児帯が横とびに奥へかけ込んで、すぐかえつて来る。すべて無言のうちに須彌壇の前で行われる動作、やや貧相な中に生動する何ものかがあり、鶴三画的であった。帰途、富士を見た。薄藍のやや低い富士、小さい焰のような夕焼け雲一つ二つ。

A氏のところに寄る。温室にスワイートピーが植込まれたところ。一本一本糸の手が天井から吊つてあり、巻ひげを剪つてある。或は細かい芽生。親切心のたっぷりした者でなくては園芸など出

来ずと思つた。温室のぶどう、バラの花を貰う。今度お菓子を持つて行く約束。すっかり日がくれ提灯の明りをたよりに夜道を帰つて来た。

Mよりきいた話。——承法のこと。雨が降りチング（ing）雪が降りチングで喧嘩になつたこと。公案の外国语訳のこと。

〔一九二七年一月〕

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十七卷」新日本出版社

1981（昭和56）年3月20日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第4刷発行

底本の親本：「宮本百合子全集 第十五卷」河出書房

1953（昭和28）年1月発行

初出：「サンデー毎日」

1927（昭和2）年1月1日号

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2003年9月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆さんです。

金色の秋の暮

宮本百合子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>